



◎巻頭特集	巻頭
尚綱の風 ～尚綱のOG訪問～	
江口吾朗理事長と仲良し4人組	2
先生っ!質問!!	4
クラブ・同好会紹介	6
新任教職員紹介	7
平成19年度 尚綱公開講座	8
【尚綱学園史】二つの「尚綱」の額(後)	9
キャンパス イベント リポート	10
平成20年度進考日程のお知らせ	12



菊地 由美

Kikuchi Yumi

尚綱の風

～尚綱のOG訪問～

尚綱の学び舎に集い、青春の時を過ごされた数多くの先輩方。新しく始まる「尚綱の風」では、歴史と伝統ある尚綱で学び、培われた精神をもとに活躍されているOGの方の「輝いている今」を紹介していきます。今回は、学生時代をバレエとともに過ごし、バレエを「生の道」として活動されている菊地由美さんにお話を伺いました。



小学5年生 白雫姫(初主役)

プロフィール
昭和31年4月5日生まれ。26歳でスワンバレエスクールを開設。現在ご主人である菊地隆平氏とともに、トシと福の2つのスタジオで150名の生徒を指導。社団法人バレエ協会会員、舞水協文化協会、舞水協会、NPO舞水文化センター(常務理事) 昭和三十九年度尚綱高校卒。

バレエを通して、優雅さと美しい仕草を身につけた女性を育てたい

「バレエとの出会いは小学生のころと伺っています。」
幼少のころから、音楽に合わせて自然に踊り出す子どもだったようです。そして小学1年生の時、外出先で偶然レッスン中のバレエ教室を見て、やりたかったことを見つけたという感銘を受けました。

「バレエを続けられた尚綱高校在学中の思い出を教えてください。」



大変厳しい学校でしたが、東京や大阪へ授業を休んでプロのバレエ公演を見に行っていました。今も鮮烈に覚えているものばかりで、私の基礎にもなっています。これも、担任の先生のご理解あつてのことだと感謝しています。

春夏の休暇中には東京のスタジオでレッスンを受け、中央と地方とのレベルの差を実感。両親に「東京に行きたい」と申し出ると「勘当されてもいいなら」という返事で、随分悩みました。自分の進むべきバレエの道を考え続け、20歳で「地方でトップに立ち、田舎でも踊れるというお手本になる」道を選び、決心しました。

「バレエのレッスンを通して伝えたいことは、ある程度踊れるようにならないとバレエの楽しさは分かりません。ですから、大

切にしているのは、「諦めない」こと。そして美意識に目覚め、美しく優雅に振舞うことの素晴らしさを伝え、どこに出しても恥ずかしくない生徒に育てたい。仕草の一つひとつが美しくなると、心も豊かになりますよ。

「お嬢様が尚綱高校に在学中ですね。」

私は大変生意気な生徒でしたから、正直申し上げると、厳しい学校に入学させたくありませんでした。しかし、入学式に参列し、変わっていいことに感動。今の子どもたちに必要な環境であると嬉しくなりました。バレエでは若い人たちが古典を理解し、守っていきま

す。高校が守り続けていることに、対し、反発する時期もあるでしょうが、娘にとって将来に繋がるよき経験になると感じています。また、先生方には娘のバレエに対して、深いご理解と応援をいただき、心より感謝申し上げます。

「今後の目標を教えてください。」
私はまだまだ勉強中。今後、一生、バレエの道の勉強を続けていきます。

